

登録医ニュース

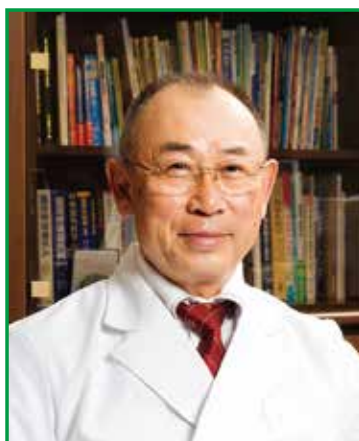
メタセコイア

第50号
2020.1

編集・発行/東北医科薬科大学病院 総合医療支援センター

〒983-8512 宮城県仙台市宮城野区福室1丁目12番1号 Tel(022)259-1221(代表)
Tel(022)388-9593(医療連携室直通) Fax(0120)25-9121(医療連携室直通)
Eメールrenkei@hosp.tohoku-mpu.ac.jp ホームページhttp://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp

年頭のご挨拶



病院長 **こんどう 近藤** たかし 丘

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。本院は東北医科薬科大学病院として5年目を迎えますが、昨年10月からは4年生となった医学部一期生の臨床実習が院内で始まり、まだまだ十分とは言えないものの大学病院として果たすべき機能が整ったと言えます。医師数は臨床研修医も含めると約200名になりましたが、同規模の他の大学病院に比してまだ150人ほど少なく、本院での診療・教育のみならず地域医療の支援においてもまだまだ十分な数に達しているとは言えない状況です。ただ、本年4月には昨年マッチングした18名の臨床研修医が新たに加わる予定であり、さらに専門研修専攻医の数も増えてきていて、全体の医師数の増加のみならず若手医師の層が少しずつではありますが厚みを増してきております。一方、病床数においては、昨年は病床数が88床増えて554床となりましたが、本年9月にはさらに600床への増床が予定されております。これにより、これまで以上に病院全体の診療の受け入れ能力が強化されますが、これを下支えする目的で、昨年は消化器内科外来と内視鏡室、腹部超音波室、皮膚科外来の移設拡充を行いました。これにより消化器内科関係の施設が効率的に集約化されるとともに、皮膚科外来ともども待合スペースを確保できたため、より一層の診療の拡大にも対応可能となりました。一方、11月からは産科分娩診療が開始され、11月中に3人の赤ちゃんが誕生しました。分娩診療の開始により、本院に設置された33診療科のすべての機能が発揮されるようになったと言えます。

このような機能強化により、おかげさまで、外来・入院ともに患者数が大幅に増加し、より多くの方に質の高い医療を提供できるようになったと言えます。一方、来院される方の増加に伴い、駐車スペースも不足するようになっており、周辺道路に駐車待ちの車が並ぶことで地域の皆様にご迷惑をおかけすることも少なからずありましたが、病院の職員宿舎を取り壊して駐車スペースを拡張してからは駐車場の混雑も緩和されたものと思います。これに加えて、今年度以降は救急センターの拡充、採血室や臨床検査室の拡充、入院センターの整備と未整備の診療科外来の整備などを順次行い、より多くの診療の需要への対応強化と病院利用者のアメニティの向上、そしてより質の高い診療の提供に努めるとともに、本院の診療を通して質の高い医療人の育成と輩出に努め、東北医科薬科大学医学部設置の理念を具現化していく大学病院となるべく邁進する所存です。本年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

診療科紹介

アレルギーセンター センター長 おおた のぶお 太田 伸男



アレルギーセンター 開設のご挨拶

当院は令和元年12月1日よりアレルギーセンターを開設しております。

アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギー、花粉症などのアレルギー疾患を持つ患者さんはとても多く、それぞれの患者さんが複数のアレルギー疾患を患っていることも少なくありません。

重症なケースや複数のアレルギー疾患があり、どの科を受診したらいいのか悩む場合もあるかもしれません。

当センターでは、多岐にわたるアレルギー疾患を高い診療レベルで総合的に管理・治療することを目的に設立されました。

また、当センターは宮城県における総合アレルギー科医の育成の任務とアレルギー学の発展も担っております。

日本アレルギー学会 アレルギー専門医教育研修施設	耳鼻咽喉科、皮膚科、呼吸器内科、小児科（申請中）
日本アレルギー学会 アレルギー指導医	太田 伸男、川上 民裕、高橋 一夫、中村 豊
日本アレルギー学会 アレルギー専門医	大野 勲、田中 章子、北沢 博、大河原 雄一

アレルギーセンターは当面の間、**完全予約制**とさせていただきます

診察日

毎週水曜日 9:00（医師の都合にて休診あり）

対象疾患

気管支喘息、食物アレルギー、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、薬疹、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、好酸球性副鼻腔炎、好酸球性中耳炎、金属アレルギー、ハチ毒アレルギー など

受診方法

受診の際は紹介状が必要です。紹介状を作成の上、患者支援・医療連携センター（医療連携室）にて予約をおとりください。

ご予約は医療機関からの申し込みに限らせていただいておりますので、ご紹介をいただく際には必ず**当院の予約手続き**を行ってください。

小児科アレルギー外来をご希望の場合

小児科へのご紹介は従来通り、月曜日、火曜日、金曜日になりますのでご了承ください。

小児科の受診も紹介状を作成の上、患者支援・医療連携センター（医療連携室）にて予約をおとりください。

心臓血管外科 ハイブリッド手術室のご紹介

しみず たくや
心臓血管外科 清水 拓也

当院では、2019年4月よりハイブリッド手術室を開設し、動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの高度な治療を、より安全な環境で行う事ができるようになりました。

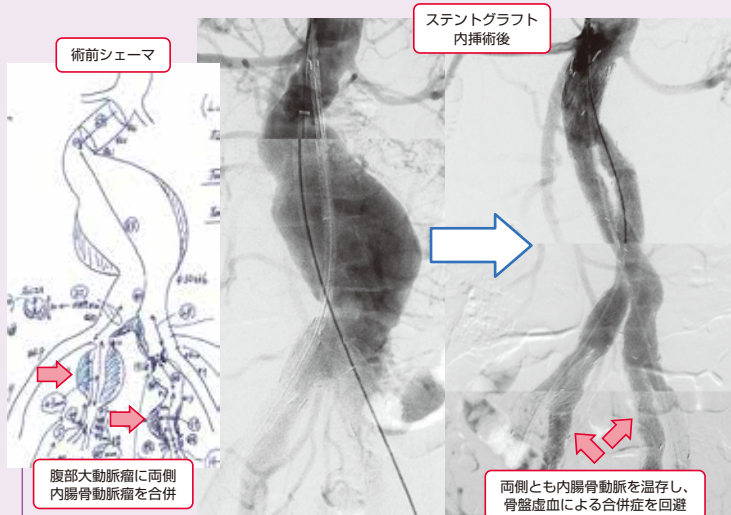
ハイブリッド手術室とは、高画質な透視装置を備えた血管造影室と、清潔な手術を可能にする手術室の両方の機能を備えた手術室の事をいいます。この手術室で行う**ハイブリッド手術とは**、体の負担が少ない（低侵襲）カテーテル手術と、治療効果にすぐれた従来の外科手術を組み合わせた手術の事を言います。

ハイブリッド手術の最大の特徴は、患者様の体の負担を軽減させつつ、精細な画像診断から正確・精密な治療が可能で、十分な治療効果を患者様に提供できる事にあり、特に心臓血管外科領域で威力を発揮しております。

当院で行っているハイブリッド手術について、具体的にご紹介いたします。



大画面モニターで詳細な画像診断・治療が可能。
麻酔科・看護師・放射線技師らと一体となって安全に配慮しながらカテーテル手術を行っている。



72歳男性：両側腸骨動脈瘤を合併した腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術。
従来の治療では温存は困難であるが、新しいデバイスを駆使して、ステントグラフトで両側内腸骨動脈の血行再建を行った。



冠動脈バイパス術：大画面モニターで冠動脈造影を表示。
腹部大動脈瘤を合併している症例では、**一期的にステントグラフト内挿術との同時手術も可能**。

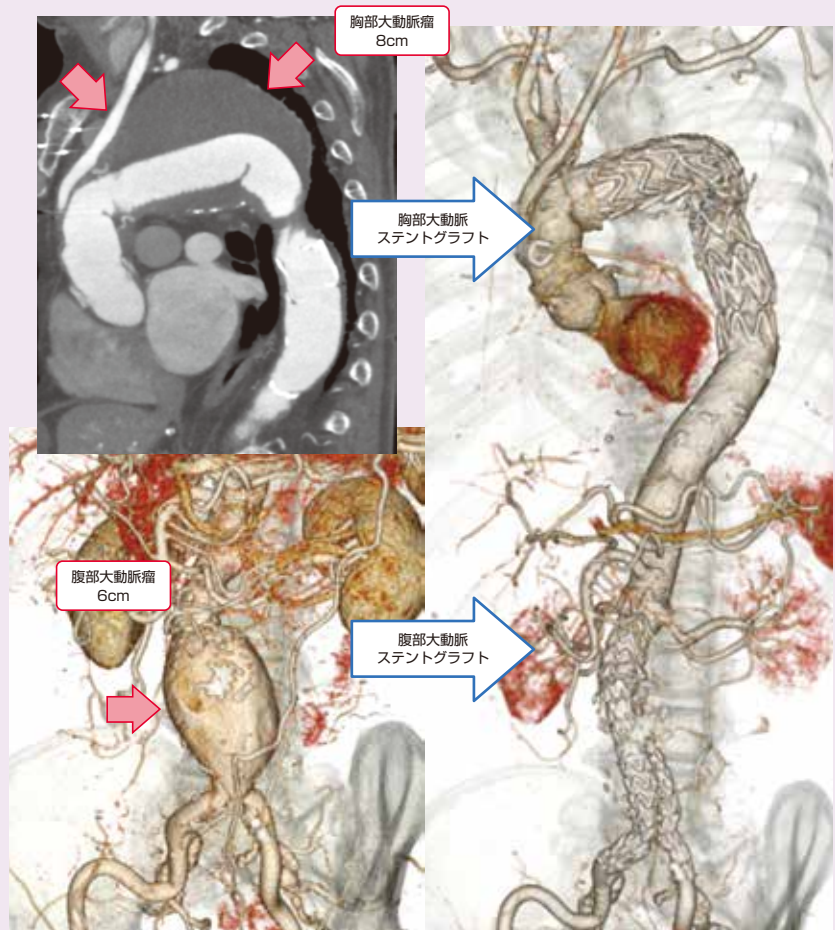


胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術や、重症の動脈硬化症でカテーテル治療のみでは治療困難な場合や、動脈瘤破裂・急性動脈閉塞などの緊急手術の場合にもハイブリッド手術は有用です。

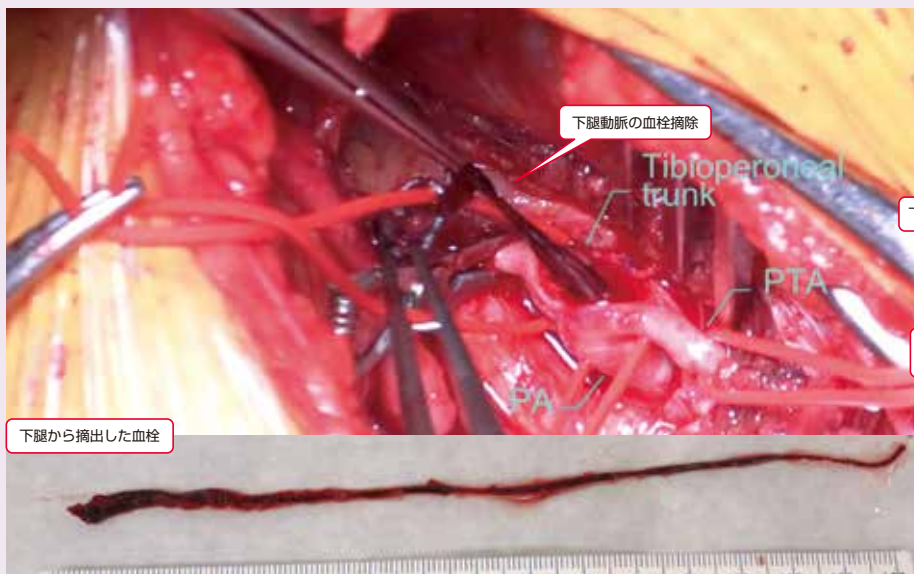
ステントグラフト内挿術は、腸骨動脈瘤温存デバイスの登場など、デバイスの進歩に伴い適応となる患者様も増えております。血管病変が広範・複雑であったり、ハイリスクであるため治療困難とされていた場合でも、当院の最新の設備と手術技術の進歩で、より安全に治療できる可能性が広がりました。

当科では、患者様の状態に合わせた最善の医療を患者様に提供できるよう、ハイブリッド手術室をフル活用し、手術技術の研鑽にも努めて参ります。患者様がございましたら、どうぞ遠慮無くご紹介下さいますようお願い申し上げます。

※大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術は2020年の施設認定取得を目指して準備しております。



79歳男性：胸部大動脈瘤および腹部大動脈瘤に対する一期的ステントグラフト内挿術。
低侵襲であり、胸部・腹部大動脈瘤に対する一期的治療も可能である。



81歳女性：膝窩動脈瘤による急性下肢動脈閉塞に対する緊急ハイブリッド手術（術中造影・血栓摘除・末梢動脈バイパス）。
すでに発症から12時間が経過し、下腿動脈の末梢まで血栓を認め、大切断のリスクが極めて高い症例であった。
術中造影にて下肢動脈の血流を確認し、血栓摘除にて下腿動脈を再開通させ、下腿動脈へのバイパス術を施行し、救肢した。切断のリスクが高い例であっても、精密な画像診断と手術戦略で救肢率の向上に努めている。

臨床研究推進センターの紹介

臨床研究 今新たな局面に！

臨床研究推進センター センター長 わたなべ よう
渡部 洋



日頃から登録医の先生方には当院の地域医療連携にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。令和元年度、私共臨床研究の部門は新たに「臨床研究推進センター」と名称を変え、より組織的に臨床研究・治験を推進していく体制へと生まれ変わりました。医学部を開設し4年目となる今、医学部1期生は臨床実習を日々の主な活動の場とし順調に進展しているところとなっております。

さて当センターは前身の東北厚生年金病院から大学病院への移行に伴い、製薬企業の医薬品開発「治験」の実施に加え、医師等による臨床研究推進に力を入れて参りました。臨床研究にあっては昨今の「臨床研究法」の施行という法規制の大きな舵が切れ国内の関連組織ではその対応に追われている様相となっております。

臨床研究はまさに日進月歩の環境の中にあります。「がんゲノム診療」の網羅的遺伝子検査システムや「再生医療」における再生医療製品の承認等といった画期的な技術開発の他、IoT (Internet of things) 技術の応用によりモノと機器をインターネットを通じて直接繋げることで、これまで通院を要していた臨床データの収集を在宅で行えるような臨床研究のスタイルも取り入れられるようになってきております。また臨床データの活用という点では今や診療録、DPCデータ等から出力される“リアルワールドデータ (RWD)”をいかに活用していくか今取り組みが進められているところでもあります。従来からの“ある限られた条件”、“限られた患者”で行われる臨床研究とは別に、実臨床から得られるデータを解析することで今まで得られなかったエビデンスを抽出していこうというものです。このRWDの解析では対照データがないことや適切な治療がなされていたか等の限界、問題点も指摘されていますが、複数のデータの組み合わせで補うことも可能であり、アンメットメディカルニーズ (いまだに治療法が見つからない疾患に対する医療ニーズ) の把握や薬が効かない要因、新たな創薬ターゲット等を洗い出すといったことにも寄与することが期待されています。

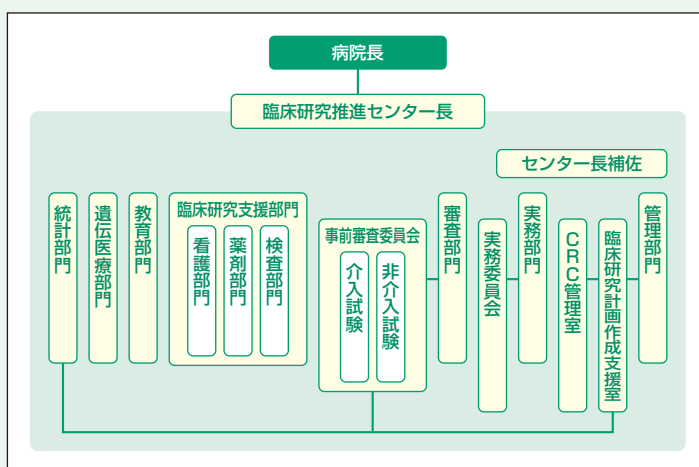
このように後ろ向き観察研究においても前向き介入研究とはまた違った要素を出力できる時代ともなっており、一部の研究者だけではなく、実臨床の場にも臨床研究の拡がりを見せてきており、当院としても治療法開発における手法の一つとして進めて参りたいと考えております。

また当院では医薬品・医療機器の承認を目的とする治験もこれまで同様進めていく所存です。これまでは「関節リウマチ」、「循環器疾患」、「膠原病」、「認知症」等を主に実施して参りましたが、今後は他の疾患領域にも拡大し国内の治療法開発に寄与していきたいと思っております。

当院の治験に参加中の患者様が貴院を診察される場合もあるかと思えます。もしその際何か不明な点がありましたら当臨床研究推進センターまでお問い合わせください。

現在、当院で実施中の治験で患者様の参加募集を行っている治験は以下のとおりです。もし患者様で興味をお持ちの方、既存治療で効果が得られずお困りの患者様等おられましたらご連絡いただければ幸いです。

今後とも地域の皆様、登録医の皆様のご支援をいただきますようお願い申し上げます。



- 多発性筋炎の患者様
- 市中肺炎を起こされた患者様
- 特発性肺線維症の患者様
- 関節リウマチの患者様



外来診療担当一覧表

令和1年12月1日現在



東北医科薬科大学病院

電話 022-259-1221(代表)

電話 022-388-9593(患者支援・医療連携センター直通)

FAX 0120-25-9121(患者支援・医療連携センター直通 FAX)

階	診療科	月	火	水	木	金	
1F	消化器外科	新患 柴田 近 新患 柴田 近	新患 柴田 近 新患 柴田 近	新患 柴田 近 新患 柴田 近	新患 小川 仁 新患 小川 仁	新患 中野 徹 新患 佐瀬 友彦	
	肝胆膵	新患 片寄 友 新患 片寄 友	新患 山本 久仁治 新患 山本 久仁治	新患 片寄 友 新患 片寄 友	新患 高見 一弘 新患 高見 一弘	新患 高見 一弘 新患 高見 一弘	
	がん治療支援(緩和)科	診察室④ 長尾 宗紀	児山 香	児山 香	長尾 宗紀	長尾 宗紀	
	乳腺・内分泌外科	新患 診察室⑥ 渡部 剛	朴 英進	朴 英進	渡部 剛	鈴木 昭彦	
	ペインクリニック科			午後 河野 達郎			
	呼吸器内科	新患 診察室② 新患	大河原 雄一	吉村 成央	大野 勲 大類 孝	海老名 雅仁 水野 友貴	中村 豊
	喘息外来	診察室③				午後 大野勲/中村豊	
	慢性肺炎 サルコイドーシス	新患 午後 診察室②		海老名 雅仁		海老名 雅仁	
	感染症内科	診察室①	関 雅文	遠藤/賀来	感染症内科担当医	関 雅文	関 雅文
	予防接種外来(待機外来)		関 雅文				
	呼吸器外科	新患 再診 診察室④	手塚 則明	田畑 俊治	菅原/石橋	田畑 俊治	田畑 俊治
	循環器内科	新患 診察室①	熊谷 浩司	菅井 義尚	山家 実	小丸 達也	中野/山家
	心血管外科	診察室④	(急患のみ)	(急患のみ)	午前 川本/清水 午後	(急患のみ)	午前 川本/清水 午後 皆川 忠徳
	血液内科・リウマチ科は完全予約制です						
	リウマチ科	新患	城田 祐子		竹下 美紀		武田 朋樹
	血液内科	新患	新患 担当医			新患 担当医	
	整形外科	新患	千葉 晋平		峯岸 英絵		第13 峯岸/千葉 第24 松谷 重恒
	完全予約制 (専門外来)	再来	小澤 浩司				
			〈リウマチ〉	〈関節〉	〈骨粗鬆症〉	〈脊椎〉	
			佐野 徳久	佐野 徳久 石塚 正人	石塚 正人	小澤 浩司 松谷 重恒	
糖尿病代謝内科	新患	丹治 泰裕	三田 貴士	赤井 裕輝		渡辺 太一	
小児科	診察室① 午前 診察室② 診察室③ 午後 診察室① 診察室②	森本 哲司 北沢博(アレルギー-外来) 川合 英一郎 北沢博(アレルギー-外来)	北沢 博 市川 由香里 森本 哲司 乳児健診&予防接種 市川由香里(アレルギー-外来)	川合 英一郎 北沢 博 森本 哲司 乳児健診&予防接種 北沢市川研究(アレルギー-外来)	市川 由香里 川合 英一郎 森本 哲司 乳児健診&予防接種	川合/森本 北沢博(アレルギー-外来) 市川 由香里 北沢博(アレルギー-外来)	
禁煙外来		隔週 手塚 則明					
脳神経内科	新患 診察室① 診察室②	中島 一郎	小林 理子	小林 理子	藤盛 寿一 鈴木 千尋	宮澤/佐藤	
救急科		救急科 担当医	救急科 担当医	救急科 担当医	救急科 担当医	救急科 担当医	
総合診療科	一般外来新患	菅野 厚博 山並 寛明 住友 和弘 古川 勝敏	住友 和弘 佐藤 滋 大原 貴裕	藤川 祐子 濃 沼 信夫 大原 貴裕	佐藤 滋 濃 沼 信夫 古川 勝敏	大原 貴裕 山並 寛明 菅野 厚博	
泌尿器科		福崎 篤 伊藤/阿南/三上/小羽田	佐藤 信 伊藤/阿南/三上/小羽田	海法 康裕 伊藤/阿南/三上/小羽田	佐藤 信 伊藤/阿南/三上/小羽田	海法 康裕 伊藤/阿南/三上/小羽田	
2F	消化器内科	診察室① 新患 診察室② 診察室③	佐藤 賢一 佐藤 麻理 佐藤 倫紀	福士 大介 近藤 史帆 二瓶 憲	高須 充子 支倉 さやか 小岩井 明信	支倉 翔太郎 津守 孝彦 佐藤 格	目黒 敬義 佐々木 義輝 川村 恵太
	耳鼻咽喉科	野口 直哉 粟田口 敏一 東海林 史 山崎 宗治 午後 松谷 幸子	隔週 粟田口/応援医師 太田 伸男 鈴木 貴博 齋藤 雄太郎	太田 伸男 粟田口 敏一 隔週 舘田/山崎 石田 雄介	東海林 史 隔週 野口/舘田 高橋 由紀子 山崎 宗治	鈴木 貴博 北谷 菜治 山崎 宗治	
	脳神経外科		佐々木 達也	林 俊哲	佐々木 達也	佐々木 達也	林 俊哲
	形成外科	新患 再診 診察室①	高地 崇	舘 一史	権 太浩一	権太/高地/舘	舘 一史
	歯科口腔外科	新患 再診	細谷 誠 篠原 文明 菅崎 将樹	細谷 誠 午後 宮下 仁 菅崎 将樹	細谷 誠 篠原 文明 菅崎 将樹	細谷 誠 篠原 文明 菅崎 将樹	細谷 誠 篠原 文明 菅崎 将樹
	皮膚科	新患 再診 午前	池田 高治 宮部 千恵	川上 民裕 高橋 一夫	川上 民裕 高橋 一夫	富田 靖 高橋 一夫	高橋 一夫 宮部 千恵
	眼科	新患		西郷 陽子	一迫 玲央		多田 麻子
	精神科	診察室①(午前) (午後) 診察室②(午前)	新患 鈴木 映二 新患 鈴木 映二 新患 丹生谷 正史	新患 中川 誠秀 新患 中川 誠秀 新患 櫻田 久美	新患 菅野 庸 新患 山田 和男 新患 山田 和男	新患 吉村 淳 新患 吉村 淳 新患 櫻田 久美	新患 山田 和男 新患 山田 和男 新患 鈴木 映二
	腫瘍内科		工藤 千枝子	下平 秀樹	工藤 千枝子	工藤 千枝子	下平 秀樹
	リハビリテーション科	新患	三浦 裕	高橋 麻子(遠見診)	伊藤 修	伊藤 修	伊藤 修
	産婦人科	新患	渡部 洋	中西 透	酒井 啓治	酒井 啓治	渡部 洋
	4F	腎臓		新患 再診 湯村 和子 新患 再診 目時 弘仁 新患 再診 谷 淳一		新患 再診 湯村 和子 新患 再診 森/衣笠 新患 再診 中村 はな	
		内分泌					
	新棟	放射線科	診察室	小山/古積	小山 周樹	小山 周樹	応援 医師
		もの忘れ外来	新患(予約制)	精神科 担当医	総合診療科 担当医	精神科 担当医	総合診療科 担当医

※都合により担当医師が変更している場合があります。